

9-12

皮下出血 その時あなたは・・・

原因を探り、予防への試み

皮下出血の予防

アクティブな生活

特別養護老人ホーム・扇

介護主任 佐藤 智子	介護主任 垣内 麻美
東京都足立区扇1-52-23	フロアー職員
TEL：03-3856-1199	E-mail：oogi@seifuukai.or.jp
FAX：03-3856-1711	URL：http://www.seifuukai.or.jp/

社会福祉法人聖風会が運営する特別養護老人ホームです。荒川沿いにある、のどかな下町の施設です。平成5年4月に開設し、特養76床、ショート4床、デイサービスやヘルパーステーション、ケアマネジメントセンターが併設されています。

<取り組んだ課題>

平成19年8月に入所された82歳の女性。入所1ヶ月近く経ってから、足と手に皮下出血ができるようになった。もともと皮膚が弱く、小さな衝撃や、少し搔いただけでも赤くなると御家族より情報ももらっている。生活の面では、身の回りの事は出来る限り行ってきた。生活の面では、身の回りの事は出来る限り行ってきた。

平成19年度で5件、平成20年9月の段階で9件皮下出血の報告書があがっている。皮下出血の軽減・予防に努め、残存機能を活かしつつご本人の生活のペースを大事にしていきたい。

- 皮下出血の軽減、予防
- 安全かつ過ごしやすい環境づくり
- 残存機能を活かしご本人のペースに合った生活スタイルの確立

<具体的な取り組み>

- 身体状況の適切な把握（入浴時、排泄介助時、更衣時など）。
- 状況報告書の記入。
- 昼礼時などで、皮下出血の原因を職員間で話し合い、対策を立てる。
 - ・ 右すねの皮下出血、右足くるぶしについては、フットレストにぶつけた可能性あり。フットレストの固定を考えたが、ご本人の拒否あり、カバーをつけ衝撃を緩和するようにした。

<具体的な取り組み>

- ・ 右足甲についてはご自分で何かを落としてしまった可能性あり。床頭台の高さも考慮し、少し低めのテーブルに物を置いてもらうことで衝撃の減少につなげるようにした。
- ・ 両手甲については、車椅子を自操されることで、ベッドのへりや居室入り口などにぶつけた可能性あり。環境整備を行う。
 - 環境整備
 - ・ ご本人のベッドのフットボード、居室入り口のドアノブ、トイレの手すりに保護材を付けた。
 - リハビリに参加することで、安全な車椅子の自操や移乗の訓練を行う。
 - ご家族への説明や謝罪、協力を仰いだ。
 - ご本人との関係作り。
 - 医務との連携を図り、経過観察を行う。

<活動の成果>

- 皮下出血は軽減しているが、1度直っても再度繰り返している。
- ひとりで部屋にすることが多いため、いつ、どのように皮下出血ができていくか正確には把握できていない。

<今後の課題>

- 継続的に、周囲の環境整備などに努める。
- 皮下出血に対しご本人の意識が薄いため、関係作りの強化（働きかけの工夫）
- 他の御利用者の皮下出血の対策にも活かす。

【メモ欄】